

ひとはくの歩み

※年度ごとの主なできごと

この 24 年、ひとはくは社会的課題に応じた様々な活動を実践してきました。
ここでは、2016 年度までのひとはくのあゆみを振り返ります。



●自然系博物館設立準備室長

中根 孝司（1989～）（社会教育・文化財課長 兼務）
伊谷 純一郎（1990）
加藤幹太（1991）

●館長

| | |
|--|-----------------------|
| | 初代館長 加藤 幹太（1992～） |
| | 第2代館長 河合 雅雄（1995～） |
| | 第3代館長 岩槻 邦男（2003～） |
| | 第4代館長 中瀬 黙（2013～） |

●開館前

1973

●兵庫県自然保護協会から環境保全・自然保護活動の分野の「博物館設置について要望書の提出」

1988

●人間居住環境博物館構想を取り入れた博物館として、三田市深田公園内ホロンピア館を活用して建設することが決定

●開館以降

1992

●開館記念式典開催、秋篠宮同妃両殿下がお成り [1]
●総合共同研究開始



[1]

1993

●ボランティア養成講座開始

●主な出来事

「県立自然科学博物館設置について」を県議会に請願（1969）
IFHP（住宅・都市及び地域計画国際連合）兵庫国際会議が開催され「人間居住環境研究センター」を設置する必要性を提唱（1976）
「兵庫県立自然系博物館基本構想」を策定（1986）

1989 ●兵庫県教育委員会社会教育・文化財課内に、自然系博物館（仮称）設立準備室を設置

1992 ●人と自然の博物館および姫路工業大学自然・環境科学研究所開館

2000 ●博物館事業の新展開を開始

2006 ●新たな「人と自然の博物館基本構想」を策定

2007 ●新たな「人と自然の博物館基本計画」を策定

2012 ●「ひとはく将来ビジョン」を策定

1994

●堀治三朗氏コレクション受贈



[2]

1995

●震災発生直後より緊急調査や提言活動、被災者支援とそのネットワーク化を推進 [2]



[3]

1996

●「ミュージアムフェスティバル」を開催 [3]
●開館 5 周年記念行事開催、立花 隆氏が記念講演

1997

●マレーシア国立サバ大学と国際学術交流協定を締結
●文部省の科学研究費補助金取扱規定による研究機関に指定
●「ボランティアデー」を開始



[4]

1998

●「ボルネオジャングル体験スクール」を開始 [4]
●岩田久二雄・常木勝次・坂上昭一氏コレクション受贈



[5]

1999

●NPO 法人「人と自然の会」と協力協定を締結 [5]
●神戸市北区でサイ化石（ザイサンアミノドン）を発見



[6]

2000

●兵庫県におけるワイルドライフ・マネジメント推進の方向検討を主導
●県立有馬富士公園運営計画策定を主導 [6]
●淡路花博「ジャパンフラーラ 2000」で展示した標本類を移設し、常設展に「共生の森」がオープン



[7]

2001

●江田 茂氏コレクション受贈 [7]
●受託研究開始
●愛称が「ひとはく」に決定
●「ひとはくセミナー俱楽部」の運用開始
●ミュージアムフェスティバルを「ひとはくフェスティバル」に改称
●ボランティアデーを「ドリームスタジオ」に改称



[8]

2002

●小林桂助氏コレクション受贈 [8]
●開館 10 周年記念式典開催、河合隼雄氏が記念講演
●「ひとはくキャラバン」を開始 [9]
●事業活動の中期目標を設定
●「スーパードリームスタジオ」を開始



[10]

2003

●高校連携セミナー、夏季教職員セミナーを開始
●「ひとはくサロン」がオープン
●兵庫県立有馬高校と連携協定を締結



[9]

2004

●県立大学の統合に伴い、博物館に設置する研究所を「兵庫県立大学自然・環境科学研究所」に改称
●自然環境モノグラフ 1 号出版 [10]
●ひとはく地域研究員養成事業を開始
●西日本自然史系博物館ネットワーク設立を主導
●外来種問題検討プロジェクトを開始
●学校との連携で「教材開発研究会」が発足
●ひとはくキャラバンの利用者数が 13 万人を突破
●三田市で哺乳類化石（三田炭獸）を発見
●淡路島で恐竜と翼竜の化石を発見



[10]

2005

●「共生のひろば」を開始 [11]



[11]

2006

●猪名川町と協力協定を締結
●兵庫県立三田祥雲館高校と連携協定を締結
●GBIF・科学系博物館情報ネットワーク推進プロジェクトを始動
●丹波市で恐竜化石（丹波竜）を発見



[11]

2007

●岩槻邦男館長が文化功労者として顕彰
●ひょうご恐竜・哺乳類化石プロジェクト始動 [12]
●兵庫県立大学附属中学校と協定を締結
●兵庫県立大学の大学院教育を開始
●篠山市で日本最古の哺乳類（真獣類）化石を発見
●丹波市、丹波県民局と恐竜化石に伴う基本協定を締結（3 者協定）



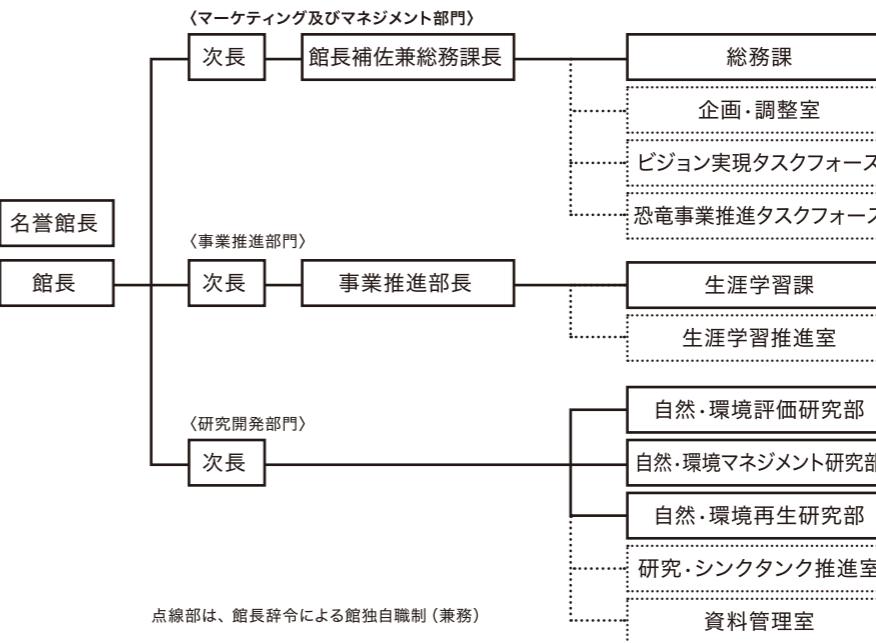
[12]

2008

●「生物多様性ひょうご戦略」の策定を主導

組織体制・施設概要・予算額 (2017年6月末現在)

組織体制・職員数



■職員数

| | |
|------------|-------|
| 事務職（再任用含む） | 12人 |
| 研究職 | 32人 |
| （うち県立大併任） | （20人） |
| 技能労務職 | 1人 |
| 非常勤 | 36人 |
| 合計 | 81人 |

施設規模・構造等

■施設規模

敷地面積：40,258 m²（県企業庁 7,916 m²+三田市 32,342 m²）
 建築面積：7,289 m²
 延床面積：18,951 m²

■展示室等面積

| | |
|--------|-----------------------|
| 展示関係 | 4,124 m ² |
| 教育普及関係 | 1,324 m ² |
| 収蔵関係 | 2,966 m ² |
| 研究関係 | 2,105 m ² |
| 管理関係 | 349 m ² |
| 共用部分 | 8,083 m ² |
| 合計 | 18,951 m ² |

■建物構造

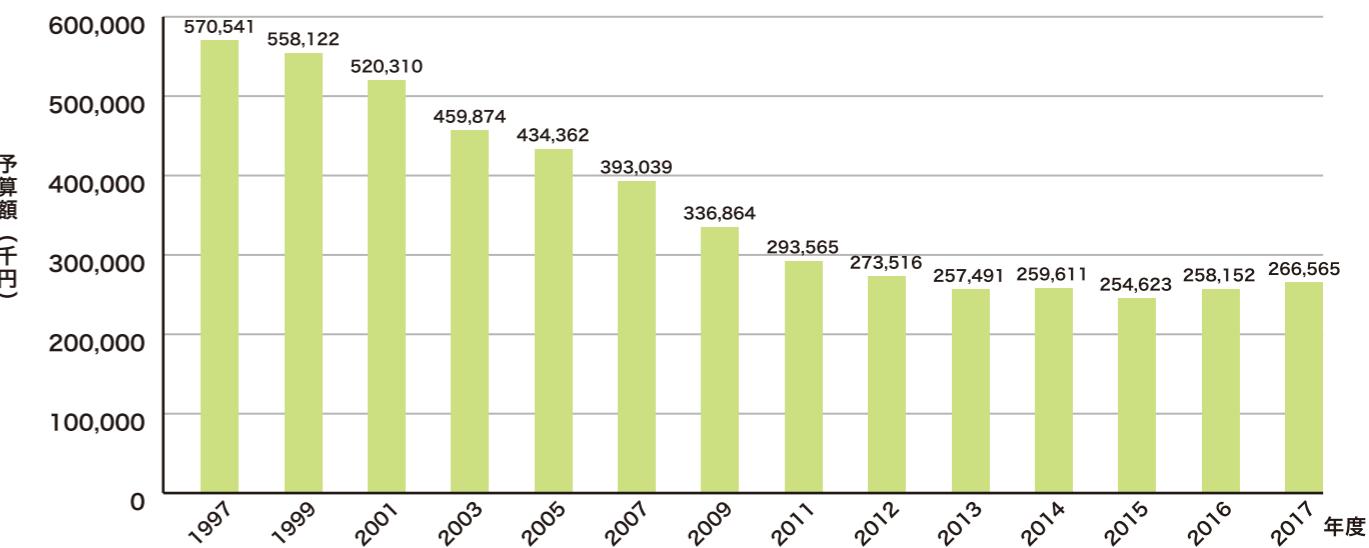
本館：鉄骨・地上4階（外観設計：丹下健三）
 エントランスホール：鉄筋コンクリート
 研究・収蔵棟：鉄筋コンクリート・地上3階
 ジーンファーム：軽量鉄骨
 ひとはく恐竜ラボ：鉄骨平屋

■建設費

施設：5,758百万円 その他：180百万円

予算額*の推移

*特定財源を除く一般財源分



- 特別展示「ファーブルにまなぶ」を開催
- 「ひとはく恐竜ラボ」がオープン [13]

2009

- 岩槻邦男館長が瑞宝重光章を受章
- 加東市と協力協定を締結 [14]
- 佐用町昆虫館と連携協定を締結、洪水被害を受けた同館への支援活動を開始 [15]
- 兵庫県産維管束植物目録が完成



- 「教員のための博物館の日 in ひとはく」を開催
- 伊丹市教育委員会と協力協定を締結
- 頌栄短期大学から約25万点の植物標本を受贈
- 兵庫県立大学自然・環境科学研究所20周年記念シンポジウムを開催
- 総利用者数が300万人を突破



- COP10生物多様性交流フェアに出展
- 「ひょうごのいきもの・ふるさとを見守るなかま」発行
- 篠山層群における恐竜・哺乳類化石等に関する基本協定を締結
- 「いきものかわらばん」を開始



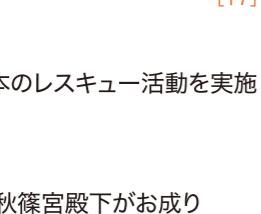
- キッズひとはく推進室が発足、「キッズキャラバン」を開始 [16]



- 地域展開推進室が発足、「ジオキャラバン」を開始
- 兵庫県立丹波並木道中央公園で小型恐竜の化石を発見
- 「生物多様性協働フォーラム」を開始
- 東日本大震災「被災地支援キャラバン」2011を実施 [17]
- 津波によって被災した学術標本のレスキュー活動を実施



- 開館20周年記念行事開催、秋篠宮殿下がお成り
- 移動博物館車「ゆめはく」が始動 [18] [19]
- 魅せる収蔵庫トライアル「ひとはく多様性フロア」がオープン
- 「ひょうご恐竜化石国際シンポジウム」を開催



- 丹波竜を新属新種タンバティナス・アミキティアエとして命名記載
- 「小さな学校キャラバン」を開始 [20]
- コミュニケーションデザイン研究ユニット始動



- 「ひとはく20年のあゆみ」を公表
- ひとはくサロンをリニューアル
- 「人と自然の会」設立20周年

- 丹波竜発掘現場脇から小型の卵化石を発見
- 羽田義任氏コレクション受贈 [21]
- 常設展に新展示「ひょうごの岩石と鉱物」がオープン



- ファーブル没後100年記念事業を実施
- 岩槻邦男名誉館長がコスマス国際賞を受賞
- 「博物館ネットワークによる未来へのレガシー継承・発信事業」を実施 [22]



- 「高校生のための生き物調査体験ツアー in 台湾」を実施
- 「三田市有馬富士自然学習センター・プログラム運営事業」を開始